

民俗芸能は、ふるさとの「宝」



本市および由利本荘市、遊佐町の番楽等が一堂に会する鳥海山伝承芸能祭が9月1日、金峰神社境内の郷土文化保存伝習館で開催されました。9団体による11芸能が披露され、約400人の観衆を魅了しました。その概要と出演した市内の芸能の由来などを紹介します。



坂之下番楽（由利本荘市）「獅子舞」



横町神代神楽（遊佐町）「八幡太郎」



解説の 齋藤 壽胤氏



会場には約400人の観客が訪れた

古より受け継がれ、歴史と文化に彩られた「技」が集う場

鳥海山伝承芸能祭は、にかほ市・市制施行5周年と金峰神社境内などが由利本荘市、遊佐町の鳥海山信仰にかかわる史跡とともに国史跡「鳥海山」に指定されたことを記念して平成22年から開催しており、今年で3回目となりました。

今回も市内から「御宝頭」と国指定重要無形民俗文化財の「小滝のチヨウクライ口舞」をはじめ、秋田県指定無形民俗文化財で、今年「鳥海山北麓の獅子舞番楽」として国記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択された「冬師番楽」、「釜ヶ台番楽」、「伊勢居地番楽」、「鳥海山小滝番楽」、「鳥海山立舞」、にかほ市指定無形民俗文化財の「金浦神楽」と、「大森歌舞伎」が演じられました。

そのほか市外からは、秋田県指定無形民俗文化財で今年、本市の番楽と同様に

国記録選択となった由利本荘市矢島町の「坂之下番楽」、遊佐町の町指定無形民俗文化財の「横町神代神楽」が披露されました。

舞の合間には、NPO日本民俗経済学会理事の齋藤壽胤氏がそれぞれの演目の由来や見どころを解説し、観客は、その説明にしきりにうなずきながら、午後1時30分から5時間にわたって繰り広げられた演技の数々を堪能しました。

同芸能祭は、本市はもとより、鳥海山周辺に伝わる伝承芸能の数々を多くの方々に披露し、継承する気運を高める場として今後も開催されていくとのこと。また、平成26年の秋田県で開かれる国民文化祭では、にかほ市の事業の一つとして、この伝承芸能祭の規模を拡大し、全国から番楽等を招へいして開催する予定です。

鳥海山伝承芸能祭 実行委員長が語る 民俗芸能

鳥海山の麓には、古くから神楽や番楽など、数多くの民俗芸能が伝わっています。この鳥海山伝承芸能祭は、年に一度、国指定史跡でもある金峰神社境内にその芸能が集い、披露するものです。

さる8月11日、私たち鳥海山小滝舞楽保存会は、岩手県釜石市の「三陸海の盆」に参加し、「御宝頭」と「番楽」を奉納してきました。この三陸海の盆は、昨年3月11日に発生した東日本大震災により犠牲になられたみなさんの供養と、心の拠りどころである郷土芸能の復活とふるさとの復興を願い開催されたものです。



実行委員長 吉川 栄一氏

その前夜、震災後いち早く伝統芸能を復活させた地元の方々との交流会があり、話を伺うと、家や家族を亡くし、ふるさとを壊され、絶望のふちにたたされながらもいち早く立ち上がったのが民俗芸能の復活だったといえます。ただ、震災から3カ月、民俗芸能を継承してきた仲間が流され、家族も行方不明という失意のどん底の中で、はたして再興の声をあげてもいいものかと思つたのですが、だれも反対する人はいなかったと話していました。

その土地に根強く息づいてきた民俗芸能は、そこに生まれた人々の体に染み付いた大地の鼓動でもありますが、それを復活することが生かされた者と亡くなった人とを繋ぐ絆であったのだと思ひ知らされました。

今後も伝承芸能祭を開催し、この地にはふるさとの躍動が確かな形で受け継がれていること、また受け継いでいける幸せを皆さんに伝えていきたいと思ひます。